



きょうの紙面



おでん

6面



3面

カラダダラケ

くれよんきんぐ 4・5面
発表！11月の作品
列車に乗りよう！ 8面
福井鉄道

未来のための軍縮

今日は「未来の世代のための軍縮」、新しい科学技術と安全について話しましょう。
人間の歴史は常に、新しい発明を豊かになるため活用し、その発明が自分たちの安全を脅かさないように努力する、という繰り返して来た。典型的な例が、20世紀の原子力の発見と核兵器の問題です。原子力は平和的に利用されれば、病気を治したり、農業の品種改良や害虫駆除に役立ったり

15年と16年の真冬に、インターネットを使ったサイバー攻撃で、大規模な停電が発生し、多くの人々が被害を受けました。現在、世界中で39秒に1度、何かしらのサイバー攻撃が行われていると言われています。もし再び大規模な戦争が起きるとすれば、サイバー攻撃から始まるだろうとも言われます。AIが自らの判断で人間を

中満泉さんから
地球を変える
あなたへ



◇中満泉さん【国連事務次長】 1963年生まれ。アメリカの大学院を経て89年に国連入り。難民保護や国連平和維持活動、核兵器禁止条約の採択などのために働いてきた。著書に児童書「危機の現場に立つ」など。



禁止すべき新たな武器

しますが、原爆は多くの人の命を奪いました。
私たちの生きる21世紀では、人工知能(AI)やサイバー技術など、生活のあらゆる面を根本的に変える新技術がすごい速度で発達しています。すでにいくつかの分野で、私たちの安全を脅かす事態が出てきました。
例えば、ウクライナでは20

殺す通称「殺人(キラ)ロボット」(正式には「自律型致死兵器システム」)を作ること
はもう可能です。こんなもの
も実際に使われるようになっ
たら、未来の戦争は想像できな
いものになるでしょう。
まるで映画のようですが、例
えばテロ集団がAIやサイバ
ー技術を使って核兵器の指令
系統にハッキング(不法侵入)

して、戦争を起す可能性もゼ
ロではありません。3Dプリン
ター技術を活用し、簡単に武
器を作ることにも可能になるか
もしれません。
殺人ロボットを規制

がパソコンで作ることもできま
す。そしてそれが、軍事的に
転用されてしまう可能性があ
ります。
国連では近年、このような問
題に早急に対応しなければなら
ないとの意識が高まり、真剣
な議論が始まっています。AI
の分野では今年8月、武力行
使の決定は機械でなく必ず人
間がなくてはならないなど、

は、国連でサイバー空間での安
全保障に関する重要な話し合
いが行われます。サイバー空間
は、人間にとって、陸・海・空
・宇宙に続く五つ目の空間で
す。ここには国境がありません。
国際法がどのように適用さ
れ、どのような原則に従って
行動すべきかを早急に決める
なくてはなりません。サイバー空
間で紛争が起きた際の解決方法
も考えなければなりません。

11の原則を採択することができ
ました。これらを具体的にどう
実施していくかを、これから2
年かけて議論します。国連事務
総長は「機械が人間の命を奪
う決定を下すことは到底受け入
れられることではなく、国際法
で禁止されなくてはならない」
との立場を明確にしています。
そして12月の前半2週間

新しい科学技術は、うまく
使えば私たちが豊かにし、夢
をかなえてくれます。決して、
私たちの安全に脅威を与える
ものであってはいけません。

◇感想文を募集します

中満さんのコラムの感想文を募
集します。抽選で30人に、中満
さんの本「危機の現場に立つ」(ル
ビフィッシュ)を2冊ずつプレゼントし
ます。1冊は通っている学校に寄
贈します▽感想文は、小学校3年
生以下は200字以上、4年生以上
は400字以上です。送り先は〒100
-8051 (住所不要) 毎日小学生
新聞編集部「中満さん感想文係」
か、メールでmaishou@mainic
hi.co.jpへ。住所、氏名、年齢、
電話番号を明記してください。締
め切りは12月16日必着。優秀作
は紙面で紹介することを予定し
ています。学校など団体での応募
も歓迎します▽これまでのコラム
は、毎小のサイトにまとめて掲
載しています。



「殺人ロボット反対キャンペーン」の集まりで、マスコットの平和ロボット、デビッド
君(左)らと一緒に議論する中満泉さん(右はし)＝Thomas Hainocziさん提供